

15) タツタソウ＝竜田草

タツタソウはイカリソウなどと同じメギ科の多年草で、原産地は朝鮮半島北部から中国東北部、アムール地方で、山地の林床や林縁に生える。日本には明治 37 年 (1904 年)にもたらされた。この時代はほとんどの植物がヨーロッパからの移入であったから、タツタソウは珍しいケースである。草丈は 10～15cm、葉は直茎 5cm ほどの円形で、赤褐色の長い葉柄がある葉は根生し、早春、花径が 3cm ほどで淡い青紫色の可憐な花をつける。和名の由来は日露戦争のときに、軍艦『竜田』に乗船した乗組員が、黄河の流域で採取して持ち帰ったことによるものである。別称としては葉の形からイトマキソウ(糸巻草)ともいわれている。学名は『*Jeffersonia dubia*』で、属名はジェファーソンのことで、種小辞はあいまいなという意味である。イギリスでは『twin leaf』、中国での名称は、赤褐色の長い葉柄を持つため『鉄線草』である。

属名のジェファーソンはアメリカ合衆国の第 3 代大統領トーマス・ジェファーソンのことである。1776 年アメリカの独立戦争の指導者でもあった彼は、独立宣言文の起草にも当たり、アメリカ合衆国の共和制を迫及した理想主義者でもあった。政治家としてのジェファーソンは自身の故郷でもあったルイジアナをフランスから買収する一方、イギリスの帝国主義に対して強く反発した。また彼はアメリカ大統領の中でも屈指の知識者であり、博物学者でもあったが、特に園芸学者として、また考古学者、古生物学者として、さらには建築家、発明家として、そしてヴァージニア大学の創設者として、数々の実績と傑出した才能を発揮した。1962 年ジョン・F・ケネディ大統領(01-05-11-38)がホワイトハウスに 49 人のノーベル賞受賞者を招いたことがあった。この席で大統領は「私は今日お集まりいただいた皆様が、ホワイトハウスにかつて集められた最も秀逸な才能と知識の集大成だと思います。…トーマス・ジェファーソンがここで一人、食事をした時を除いては…」と挨拶したほどであった。タツタソウの属名は園芸学者でもあったジェファーソン大統領に敬意を表して命名されたものなのである。

タツタソウは青紫の花が美しく、また葉も艶があつて美しいために、最近では山野草の一つとして栽培され、愛好家も少なくない。しかし夏の暑さに弱いために、関東地方以西での栽培はかなり難しい部類に属する。夏場はヨシズの下で育てるとか、木陰の涼しいところに移動することが大切で、また冬場は枯れ葉を集めて、乾燥しすぎないように注意することも重要である。植えつけるときはできるだけ大きな鉢を用いて、大ゴロを多めに入れて、水捌けをよくして育てることも忘れてはならない。繁殖は株分け、もしくは実生によるが、実生は直播きしても比較的よく発芽する。しかし花が咲くまでには数年はかかるので、かなりの忍耐力が必要である。

タツタソウの根茎にはアルカロイドのベルベリンを多く含んでいるために『黄蓮』(01-02-06 オウレンの項参照)の代用として、黄色染料として用いるほか、火傷や化膿性の皮膚炎、眼病、消炎性の苦味健胃鎮静薬などにも用いられる。



タツタソウの花、根茎にはベルベリン系の黄色染料を含み、薬草でもある。観賞用として多く栽培されているものの、夏の暑さには弱く、手当が必要である(栽培品)。



属名はアメリカ合衆国第3代大統領のトーマス・ジェファーソンの名に因む。



関東以南では標高 1,000m ほどの高地だとよく育つ(長野県軽井沢町)。



自然界での竜田草は4月初めごろ、写真のように落ち葉の中から突如として芽吹き、花を咲かせる。開花期は1週間か10日位で、花が終わる頃、春はいつそう深まり、桜が咲きはじめる。



これは白花アメリカツタソウである。学名は『*Jeffersonia diphylla*』で、いわゆる竜田草とはかなり異なる。竜田草と同じころ開花し、寒さには強いが暑さに弱い。

[目次に戻る](#)